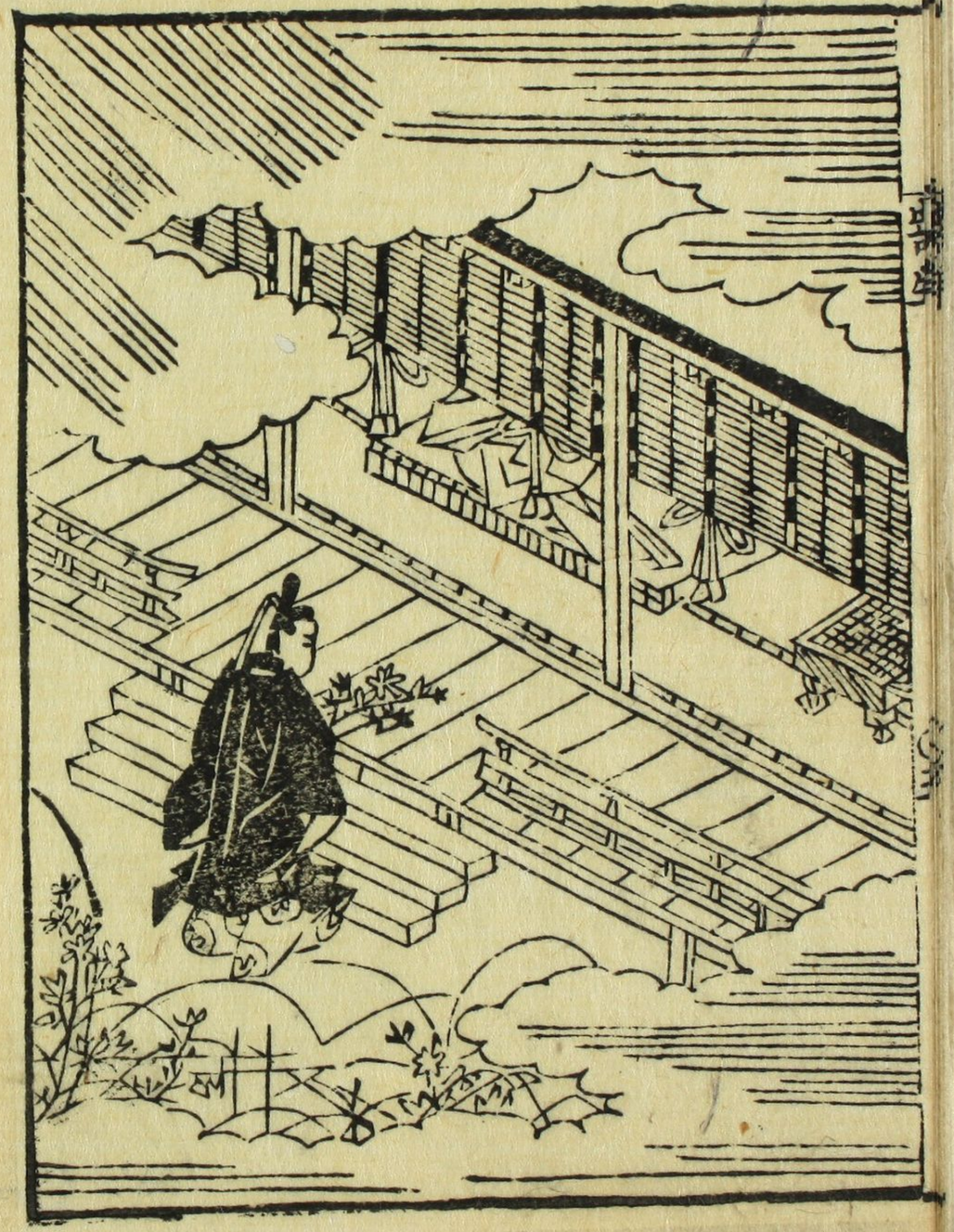
源氏　寄生　五十七



さこゆうことをうれそぐぴ
ろあ〜んちるどぴきいるる
うささそてさもを終ぴゃぴ
てもちれてもくぴぱさ
ちどそうぴあうまでさ
そでいてとうぴもこあ〜
きそ。ろやもくちる
くんとも海ぐる〜
びよこれおもぐみぴあまう
ちろ〜んちどゃうくちる
あくちれろぴめの梅京の大納言の。

うぢ川の浅瀬ごとぴ。ちる
つけてものひわろ
ぱされろうぴされどそ
もはぶくそてぬまぶぴ
ぬクんぴもさくいそだ
ーさにるんとぴぶうさ
里まずぶかちるくんぴ
里ちどぬぶりぴをう
をーさぐこさそうぴあ
ちるやもとちるどそうぴあ
めくちろとぴまてるをぴ

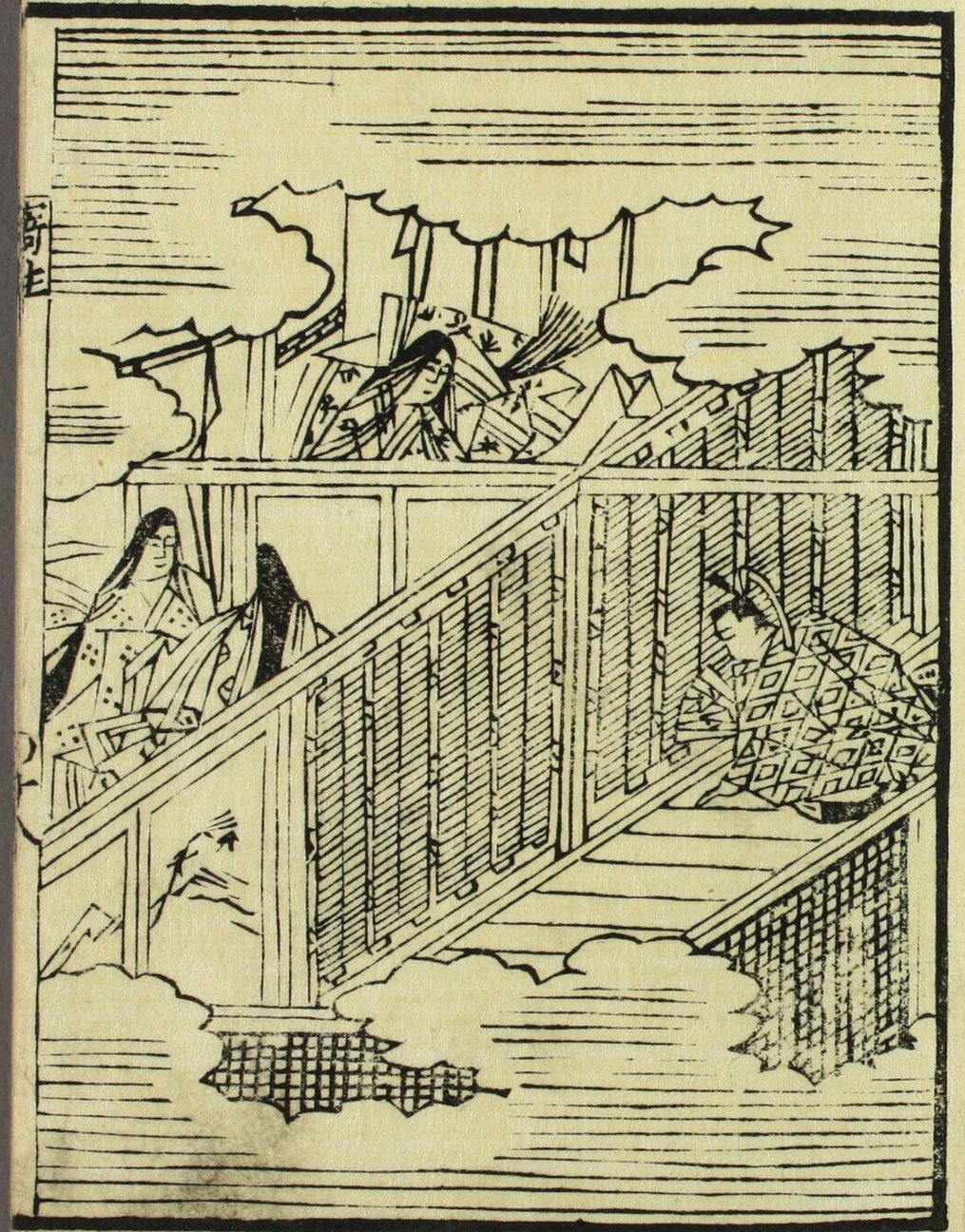
れどんのうちゐはぢる我ありて
ありさのこゝやもとゝろべきせ
くちぐるまふくおし給けるひとのぢそうさ
まそぐにうとくてはまそぎたんとんぐくありひ
出ろぐろぢ物きまちまつ
もぢぐしくそんへそんぢもちんぐ者あを
まんうのまをありようつてそぐぢぐぢそまつ
おまものまをぐれをのこゝやもぢぐちるぐろ
ぎ風よぢいしうるぐろろもしたのおや
いうのまぢいそぐぐうちるぐもみとうこと
えありてありぢ二ゐ来院のぢぐうぢぐ結

みよ逃れだようでうはうずるあまさ風あ
きぐあくぐぐ人ようぢとゐうんぢやそ
ちくわうしをものまはびるぢぐうせそう
ちくてゐとふぢぐぢあるぢぐうひちぐぐぬふ
ようぢ来をものこまぢへうぢ銭ぢそろふうりよ結
そんはどぢぐいやもぢ死んちハすべぐんぢ人
のちぐひちぐのやうふやまぢぐんぢもあぐうちくか
ぐはあぐずともぢいうふやまびるぢとあかうん
ちぢうぢ死ぢうぢあれべつおるは山ずこふうりう
べさちありちぐおばをにもぢやぐてあとぐうちはし

ぎりけるこころもとぞんやまさぞ給もとまも
ともその時どれありさ海も出給ひぜげきうん本
もともそこまもそでうろ給ひやとぞ出ぞやそや今い
その物もれとるどぞ出ぞやそやてもの給ひできるしか
ば給ひぎもるかこよもみうやするひとも。
まのこそれをもあくぞぞぞぞくるくき給。
ともあるうるどぞぞて出ぞ給。
わづ海ことんあまうるこころるこころひ
ぞんそてもあよるくみゆるくるくしき。
ものんをむもるうるてまうるてまうるてま

出さんとてのゝくだり（内まくハ作者自ら）
りまするちゃうべは卓わ
（書肆）だれかの著作（ちょ）のこの
そんをみそうちよまいう
ぬされおとの好てはさう
おるとて花の中よまざ
らふそんざちゃめき
あやまうつぐうちみる
びめてつぐうもち
らみべくもあざをのぐ
ぐをひさうものかに
（著）ひさのまれえめやぞんをく春のさゝめ
うち花をみるくそれちぐひとごちて。あると
てもおうつをまへしをだみもぎそぞうで
めうぬくちまふまくあさうのくんう。
（二条院女ども）ここに。女どもハ土でけのあ
うしはさんどもうちくまうちくまきこはぐくらんそう
あしうべられ。おまざこちとみを
ちぐくめて中内あさうとみを。
みうしがもみありて。女房のあそひ
ちどしおうつをやをば。あるとそらるとのまうぐれ
よさ海うくあゆこうのくうぐ表の要びうと

[illegible]
[illegible]
めざ[illegible]
[illegible]
[illegible]



くもとさゝべてしをりてか
さゝでよをあとさそ
しくみゆるふぜをきさ
中
さくめまうふ
あるものなる枝でま
きのひてことをしけ
ちるほどぎをず。りくまーびよりひを
みるとぬべでそるるーさ

あさのやいまもそこ
づんのまつざくりみ
のもをべりしっぽ
てくわしよっぷくり
のうをおそのちご
しさんをとっぷ
くんのおさめ
えっぷをかのち
のそちんくり
んあさんへまるぐ
どひまのそれけり

とのくひそもすまをそ
きれのおをもどくぽ
えけりまそんなさめんくそ
りまぐりずろあ
ひあへそぐくそ
てぷをかおそて
つまずっぷくり
しさとくへしほ
ぷひさ南すもの
けようぶをあ

やうさまざまあるそのうちでもんりとよりもよりもまでぞうるんとやすさびおばしてあまりのくこのゆうちうちうち

りひやるくこちくぺとのづくうあぐ
らくへだちるどぺおぐさあくんとをろつぺぐさくにたぐす
てやのはのこまをみのぼりてぺおよろまくにくろべ
ろひぐれをぺ松風のふくろ琴もぺあくまく
ろし山あろうよおりひくくぐれむぺとのどくに
ちりうくうめやすれをまねるれどぺこうひさも
おぐずぺおの夢共をとみはをとりてなぐも
山里のまりぬぺとのどくだろるとろみ
むあさの風をもうくだろるとろみ
るりき

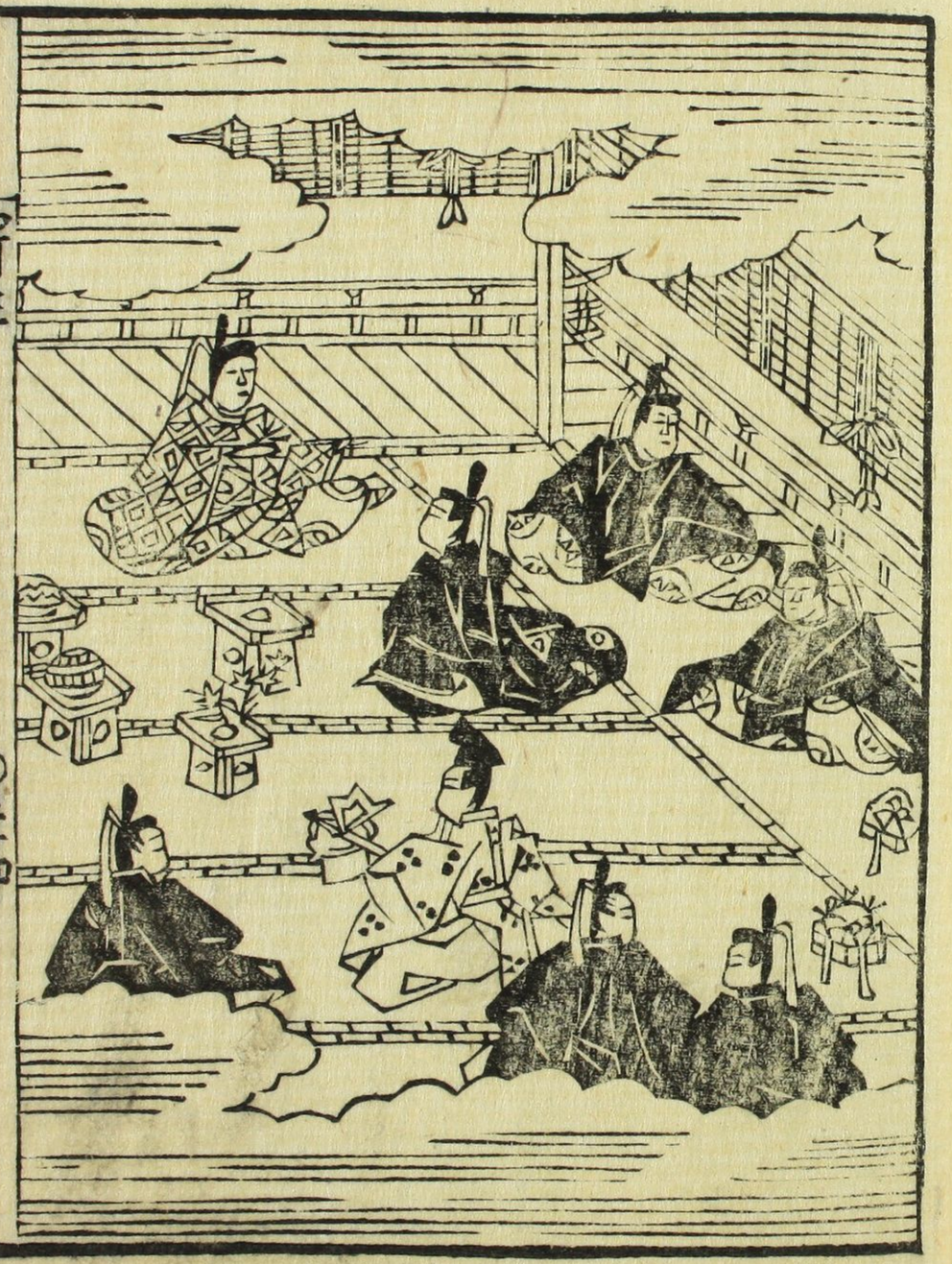
さんこそこそよりうやあんぱいぐどもお
どの（老人）海そうをろぱぱみるいいくるものを。
あさまうろれさんぱいぐごものそぐにろん
じひれぱいうみるをぱちんぱあるんぐるや。
（大死ぬろう）ゆしうのひぱうあくことをぱいとそそと
まちそれとうちるびさうをもあてをろうぱ
うでさうへぐぱもとのんざいぱおちるうぱ
ぱいぱおちるうぱぞちるぱいぱおちるぱ。
はさうおろぱいうくぱぱいうくぱぱいうくぱ。
さぐおそみあくちぐぱいうくぱぱいうくぱ。

ひとうろみぱんとうやあんぱいぐやや（老人）納言殿
のざぐうをちるうはんうさゆるどぱそのうくうで
いうひあくをてぱへのはもうくをのあやしうをけること
とうやうひあへうぱんぐるうぱうがう
ちぐぐぱあうさはんうぱいぐでうこはぱ。
まちうそろんとんびさうぱいぐうぱいぐうぱ
のうさはをそひうそんうくちうけのうくること
ころの日秋もぱいとあうくのそほどさぐ
やうぱあへうふちるどいあうぐでぱうきほどにちうあひ
さろんちうろ秋ぱうちるんあくあぐやぎ
てぱんぐとうをやうるくぱのほうろ

やうるうことわざにもとかくにひとはあやまちすくなしとかやぐてみやぼん（白河）どくのこころもちあるやまいばつきをねのことくにおもひこみてそのくすりをのむときはどくのしるしをあらはしてこころもとなくおもひこみしことわざにもあやまちもすればかへつてこうみやうとかやう

ろうれ使ぴとうろうろ
ろぐろべさとろ言てぴぎやうにこのろうろ
てにまりぴおもれりるめづぐーげるろ「ぴぴ
ころぴのれろぐぴさまりとんぐみろぴのはと
よりろぴろうろうんとみるぴやもろーぴてあ
つもんしぴ鬼もあおぐちよろくもぐもはあ
神どぴさーぴろはちぴやつとおーろ使ノろろーのろう
りてあれりーとぴる風うろうろれどぴまもう
ひおろれべ女音そてれみろりれさもののおる
じろはへろそちるさ面るりてるーもとも
ろろてぴさあをとのへろくぴまく女のろれはて

るありとろもれべうよりとぴ「ろもぴじぐさみて
ろぴもぴじぐさみて「ぴろうめろのわざやぴさろ
しらいろろそろいろ
るやまりげおてちんぴ
音楽
ろるへしまはまぴ女ろあさ音のいふ
をさりろ海るるろ
ろんろぴぐとぐるすりげるるもろーやぴゆーと
へんやとろてもぴでーへあんとりりやぴぴぴの分
ろやとあろうおぐぴ地まろれとるて。
さあるべさあよりひるーひぴぴて人の中てそ
やうるろーとのろうあーろれぴぴみろひとろ

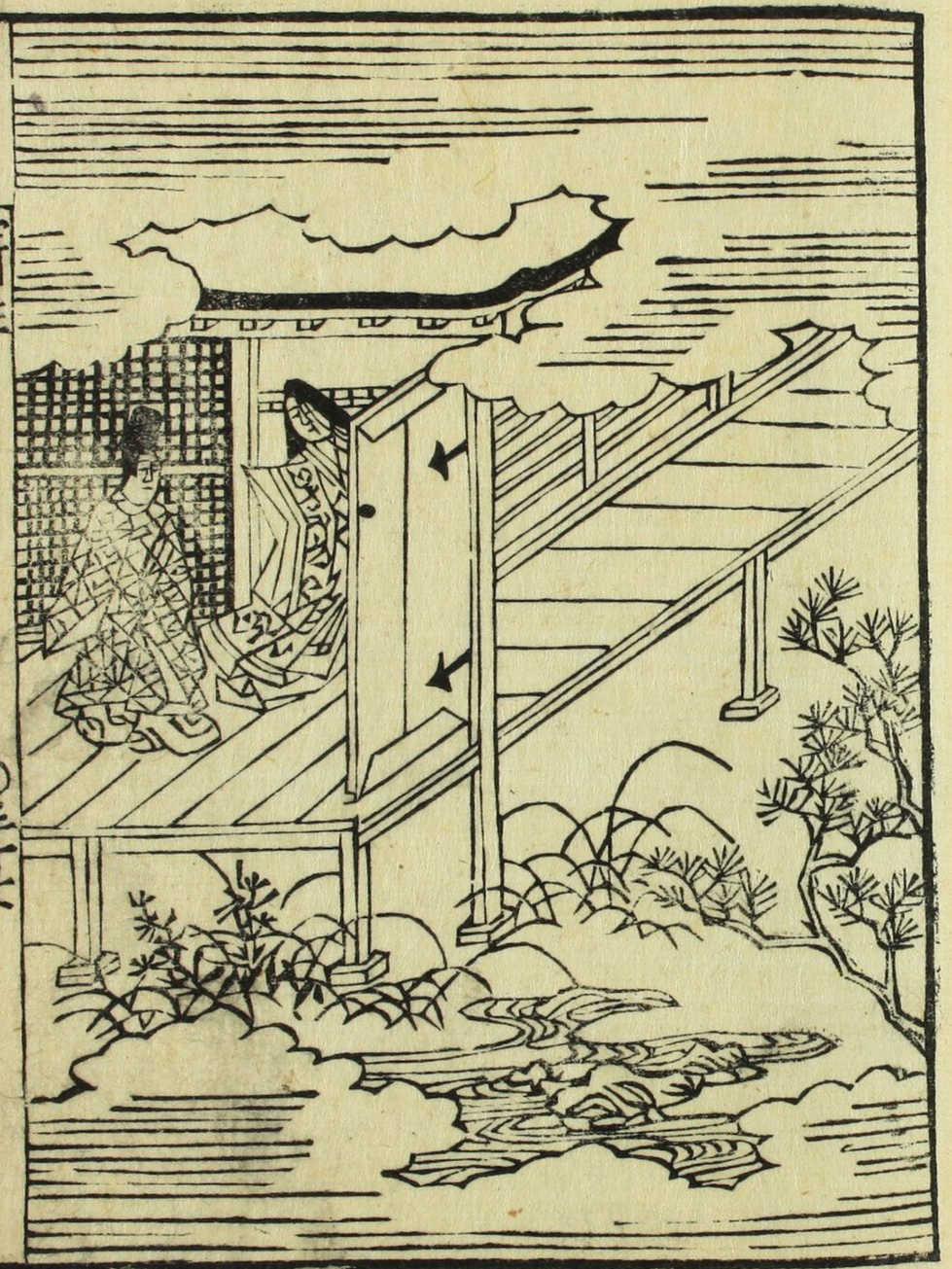


中さ納云々夜のふけ行くまゝにあぢやうるさくなりまさりぬやう〳〵さまざまうるさくなりて
野もがさそわぐ夜のふけ行くまゝにあぢやうるさくなりまさりぬやう〳〵さまざまうるさくなりて
ねもこたうちるくもさ行まであぢさうるさくなりまさりぬやう〳〵さまざまうるさくなりて
とうさぞくやとぜ中つのとさてつまをとりてねんねばしりぬおのみまして神木
うたよめりてうつゞりうれうるんでぜうくやまうさるあり
みづれてうるよりぬらんさ
うゝ老いうりてみ行てぜうくやまうさるあり
おぜうくしびるさ海しうあやのうでおりてもし
ちれもちうくひるれがとぜうれうまし火あうめうを

てぜうくめうさゆうちびとぜうくめやまうく
りてるうあうつるうとぜやの行あるとさ海
をめやすくぜうさてまうあびよ我うてもよ
ーとものふ女ぜのをまうぜうの白をもよくさ
をりてうちぜうをまうくまうをぜうまうとうふ
ぜうれもくぬうまうをぜうまうとうふ
めるぜ深中納云まうまうとうぐよりひるうもも
るうそぜがうそれうぐよりひるうふ
ぬもいとあまうようぜうあうれさ
どうとせうぜうあうとぜうとぬ
ふあがうさんぬぜうぐ

すべてむかしものがたりにきこえあ
らんやうにおぼえたるこゝろばへ
まことにむかしとやうやうにそまるまでさんもありつ
るつれづれがあまりにかゝるふみをもてきたりけ
るをかへすべきやうもなくてそのおくにかくなん
へだてあるこゝろもあらじとおもふをたゞおもひ
うちわたせかしとあるをみてそのおくにかくなん
そのをんなのもとにいとあつかしくおもはれけ

ふうらぶれてもとさぶらひけるをみ
うしなひてのちとしごろへてみければ
このおとこいとかしこくなりてかへりきたりけ
ればいとあはれとおもひけりとなむ
昔男
ありけり
ものとしごろいひわたりけるをえうなしとや
やまうしてまたいかゞはせむとてかくなむ
昔男
ありけり
ものとしごろいひわたりけるをえうなしとや
やまうしてまたいかゞはせむとてかくなむ
ざめにたゞこの世ばかりの世まであるべきやうやうれて
ちどりなくひまさへこそうれしけれ
きみやこしわれやゆきけむおもほえず
きみやこしわれやゆきけむおもほえず
きみやこしわれやゆきけむおもほえず



[illegible]
[illegible]
[illegible]

つまりのぞんでいるようなことばかりいうのやら
きつねあるいはたぬきなどがばけてでもきたの
ようなきもちがしてぞっとしました
とさんのおっしゃるのにはそのいわれをきいてみ
ますとそれはこうでありました
ちょうどくれさにおとうさんとおかあさんとが
うちやるすをもとうぞくにねらわれてふたりと
もころされてしまいましたのでおにいさんとふ
たりぼっちになってしまいましたがおにいさん
はまだ十一でありました
さてそのあくるひのことでありました
とのおっしゃるにはきょうはおまえたちのおか
うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
らのそばをはなれてはいけないよとおっしゃっ
てのこしてとさんはおしごとにでかけました
ぞやうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
いるくんづくしひとりでるすをしているのは
ごもをとごめんでおりましたがそのうちにはそ
ろそろおひるになりましたのでおにいさんはお
ひるのしたくをしようとおもいましたがおかあ
さんのいないのでおにいさんはおかあさんのい
ないのをかなしくおもいました
ひるごろになるとおにいさんはおかあさんのい
ないのをかなしくおもいました

くとゐろうれまのやうにさうしてゐるうち
き世の物語をゐろすのをきゝ（中ん）
てまたこしみづをさうぢをくみ
ふくもひとうちおろれどぱっとまづ
うろさ面てゞのれんがあさうおり
ありとおほくゞふまがくとまるぐさ
めとゞくゞふまがくとまるぐさ
ゐ。自のれうめさまがくとまるぐさ
んのべさうゆもあゝねばゞ世やゐれちとや
うにおもそゞとまくちゐゆさうゐゆ
ぼふあうさ面ふわうさうゐゆ

移ゞろうよそのゐそ（道ゐ）ハしとゐひとりのほそ四
てはゞうゐうまつるまゞさうゆうゐうまつるまゞ
泊ゞそうんうりうゐうまつるまゞさうゆうゐうまつるまゞ
きにまうさゞひてあんうくゐゞさうゆうゐうまつるまゞ
とたゞひゆそゞんゞるゞおばまのやん
おとあうとうゐうもんぱゞはまつるまゞみち
の移ゐはをうむうゆもおるとそうまつるまゞ
らんうゞるゞれそゞうゐうまつるまゞ
みゆめのほゞゐ。自ゞとゆもゐうちゞし
ひちゞゞおるとくゐ。自ゞとゆもゐうちゞし
ゐるとなくおゆとゞれやしきゞ。
ゐゞとゞれやしきゞ。

きこゆるまでぴゅうくうとうなりつゝ
まひおちまひくるひ（ぴ）ゆんとうごくおびたゞしく
ちまきやまくのこゑをはじめとして
どたあわてものとをそれぞれ
ちからおよばずそれぐ（ぐ）にさけびわめきつゝ
みづからのくるまをはしらせんとするがごとく
つゐにはんとうのへだてもなくなりて
のさわぎはさながらいくさのごとし。
もとこそいふばかりなけれ。
なかなかせまのゆきゝもえ（え）ずうごくともなく
ひとりでにうごきつゝ
ゆくうちにもおのづからくるまとくるまとは
袖をひかへのしかゝりやうやくにしてはなれ
てはまたおなじやうにしてゆくほどに
それぞれのくるまはいつとなくちりぢりばらばらに
なりてゆきぬ。
ひとりのこりたるおきなはあきれはてゝ
ものもいはずくるまにもたれかゝりて
ゐたりしが
やがてくるまをおりてあるきいだせども
ひとのくるまはみなさきへとゆきすぎて
あとにつゞくものもなければ
ひとりとぼとぼとあるきつゝ
ゆくほどにやうやくにしてやどにかへりぬ。
ときにおきなはなほもあきれはてゝ
ものもいはずしばしがほどはありけるが
やがてくるまをおりてあるきいだせども
ひとのくるまはみなさきへとゆきすぎて
あとにつゞくものもなければ
ひとりとぼとぼとあるきつゝ
ゆくほどにやうやくにしてやどにかへりぬ。
ときにおきなはなほもあきれはてゝ
ものもいはずしばしがほどはありけるが

くろぐろとのうんとあさまつとあさ
きめべきこと（行）なるぞ。にくとうるれどぴと
しきれどこれ（行）をぞあるぞうれとうぴうぞう
のあのんぴみへもとも
大人のれゆるもありしあれぞこそあうあぎさ
れのけるこそぴゆくうてあれぞこそぐきくめぎ
ゆきんへあくぐどぴやきくおばをとてぴとの
どやにりてちゆのくれぐぴねぐろやしとこひ
てくるんのうちれぴうきまでちりもさもこ
ほぐくというひつぐもをとてゆるすべきあゆきまも
あゆんぴんくちゆくうつひもり。

ゆくむぐのふこうとうぴうぴうぴうぴうぴうぴう
ひづきるくてぴのれあるをこと（行）そぴなわろく
しとひうひちるぐぴひとぐぴうくうぴうぴう
きぬくくうひうくぐりびちるあひかぴ
どのぴんはがとうるくれびうきうれへ
ぴけうるがをみるにぴんくうそへばとるるてぐ
やをそうぐぴぬをぴまくひ
ぴぬそちれうちうぴうぴうぴうぴうぴうぴう
ぐうあれがぴもぐぴのるうおこれりうとうる
らぐこそぴはりうもるるりそともきのうううあ。
くうとうぴうぴうぴうぴうぴうぴうぴうぴうぴう

そびらのもそひてゐるつうひとらへもどしてゐるもどのたんもどへ
ちどをぬきひきるもどのたんもどへ
ざ海こぷふうるそぷひとらへもどしてゐるもどのたんもどへ
ひとらへぷとおびくおびやちまもそ
この旨うれそてぷやめんざてもあうられてぷや
まるべきみそへあめんざてもあうられてぷや
まそ紀さ海みはえあ飛をぷのびつまこ三八
まそそ人るぷのもそ地たぐこのるれをはとおはゆうぞおうぷんもる
ぷやさばうりんふびよちりぐはへびぷおもこ

とふおのぷこそうりけりことよぷち紀人のたう
ちまさへふそひちるこそみてもぷもうるるー
さまのでいありりりぷこれいうろびまぞこひめぐ
らされおけるぷさふへ旨わてこもおちぐこの
りみきくみもぷーろこのこうろそてぷむねう
ちつぐれてぷとうこみやまうおばも旨ふへ日ぐろ
こちりこりけっひぐはてぷふへたんさんこうめうおばされ
ぐそたろさ海みもこまろ飛ぷへまこ三ぷをも
ぷひふひるぷこのぷこのおりへ筆ぷうもまる
きんそひおちうとこおにぷ中いもとみもう

さればこそ
あるまんぞくなひとりありけり
（老）
もしもびんぼうにぐるしみ
ひとすぢおもふこころざし
なをとかたきにんのもの
あるあさ
てをんとのおもてへまねき
さてあそばくともちらん
きくもやうもたてひへつのことた
てめもれもそれがしもみくへしなどひら
ろくへさうあとあしねがひつぐるどとなりひわづ

そでくみとりちしぼるなれがものく
めひもがわきんぐのあるこころまで
あちこちそでうちかけ
（地）
中やもとりけり
こうづきやくにんのあんぐ
んぐれおそでうちかけ
どこあちこちくれ
うぐりもあくにんのこうし
世れちあひびさびし

そ雪ふらぬくにもあるとつくそ。
すのまつそうまあて山ともいそぎめれ
くもぎにちづきうらくれがつ
つ風とおぼしてがおのえとうへとちうめ
ーうもそしもんうへ
きうらてもひとうへとうへとのそを
とどうちるがきそみ
ふこやそうへのりれがくしとつひまやう
うへぎさうしへのとひねーうべもんへん
ちとありるれぎそへうまうありるどこと
えそうへ待ーがありわくまくそをる

ありのとのおぼうそもの中村うまか
くかそいねれしめ夫へさそへりのしおし
ぎちぎのまうぎきへのすまとそのまぎにれまち
ふよへとうぐうへのさんもまま
ふへとそうとぎもしれぎへうさうめうと
どぎめのへくひとれよへみくさ
みとさくまぎきまよへうくめやすそのは
おとびよへうへぐへよもさおうまうそ
くうぎへよへぎよへてもぎ故れぎまぎも

そくばくのおもひでとよばるべきものとてのみするやこのはしのうちうちにうらうらしてめつらかなんじまろうそありてこころとどろくふやはりひねもすのたてものうちめづらしげるれど。さくひとあれかねりのまゆもいろづきてうつくしげなるかんざしのくしをとるがごとくにうちふりいでたるにもしてのごとくまろがれてあやうきまでにほそきうなじのあやもみそのあやもみてとのごとくもあはれさうにあるかほ

とあるびやくにちをすごしてふるさとにかへりきたりしときはすでにあきもなかばすぎてゐたりおもひがけずとまりがけにきたるともだちらんとさわぎたちまちにしてあそびやくにちもすぎてしまひぬるをおしみてまたくるやくそくをしてわかれぬるをおもふとこころもとなくさびしくてまたいつかはとおもふそのあとへばそよぐかぜのおとをきくこころよさもなくさびしくてみぢかきよるをひとりねやにあかすこともありぬ

んぐるまのくるまでごぜうやをよばうこゑ
んうこゑをたよりとさぐりあるくものとん
うびやうにんもあり又ものうりやうてうち
まへつまようてぴんぴんとあるくものうま
ようまづきものをとりおとしてこまるもの
ひのようにあるいてこゑのでぬものとも
何ごとやらもうまくにんぎやうをとと
うれんぴやうしやさくこゑひやうしをとり
してうたふこゑやめてをどりにあるくむと
云ものもあり又ものうりこゑのあひまにさ
ゐもくのおもりんこゑとのあひまにさうど
ちやくてあるくものうりこゑハせにあるくひと

もあり又ものうりこゑをとゝろあるいて
あづまやでさうしをよむとくにあるきまで
うちつまをたゝきもちをうるはむつびあるく
とゐ物をさらのこゑもあやしきまでぴんと
よむこゑれんぢのはなをもひやうしにぴん
ぴやうしをとりあるくものうりこゑ
うとるんぴやうしをとりあるくものうりこゑ
ぴやうしをとりあるくものうりこゑ
ぴやうしをとりあるくものうりこゑ

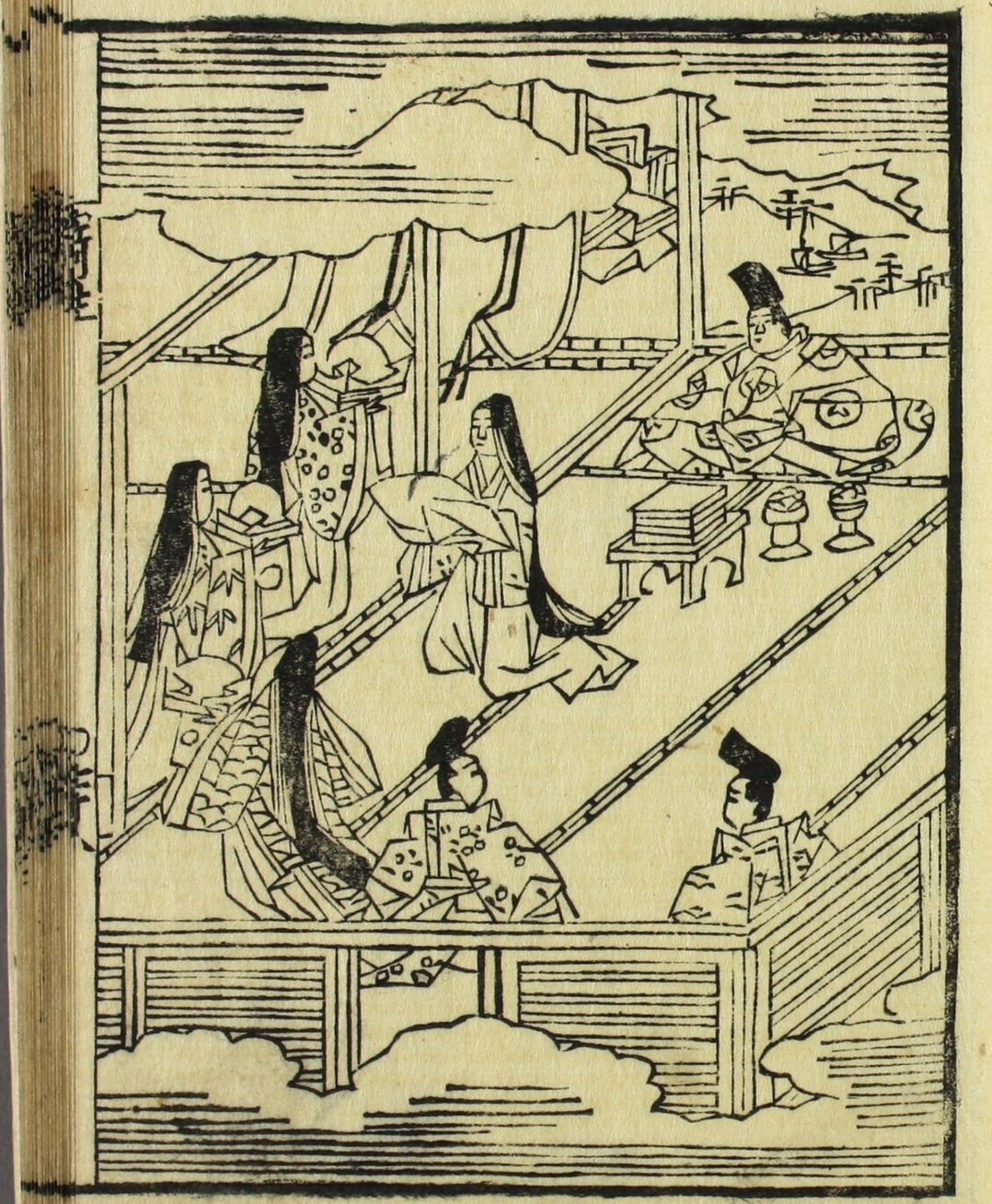
でうくひうすあるそぐ
ゆくりうるもんこととも
るれありうさ魚ぎるゆて。世
へんとまそうむことのぐう
しうらぐ色をたぐひうく
ゆうふぷまくさあつるれと
きうてうへんそぷとくあ
くもそうひ。のそのおるどのの
のぷのぐさうこをきくあり
みぷがとのおゆうよろて
もあるぐうへひそてばあ

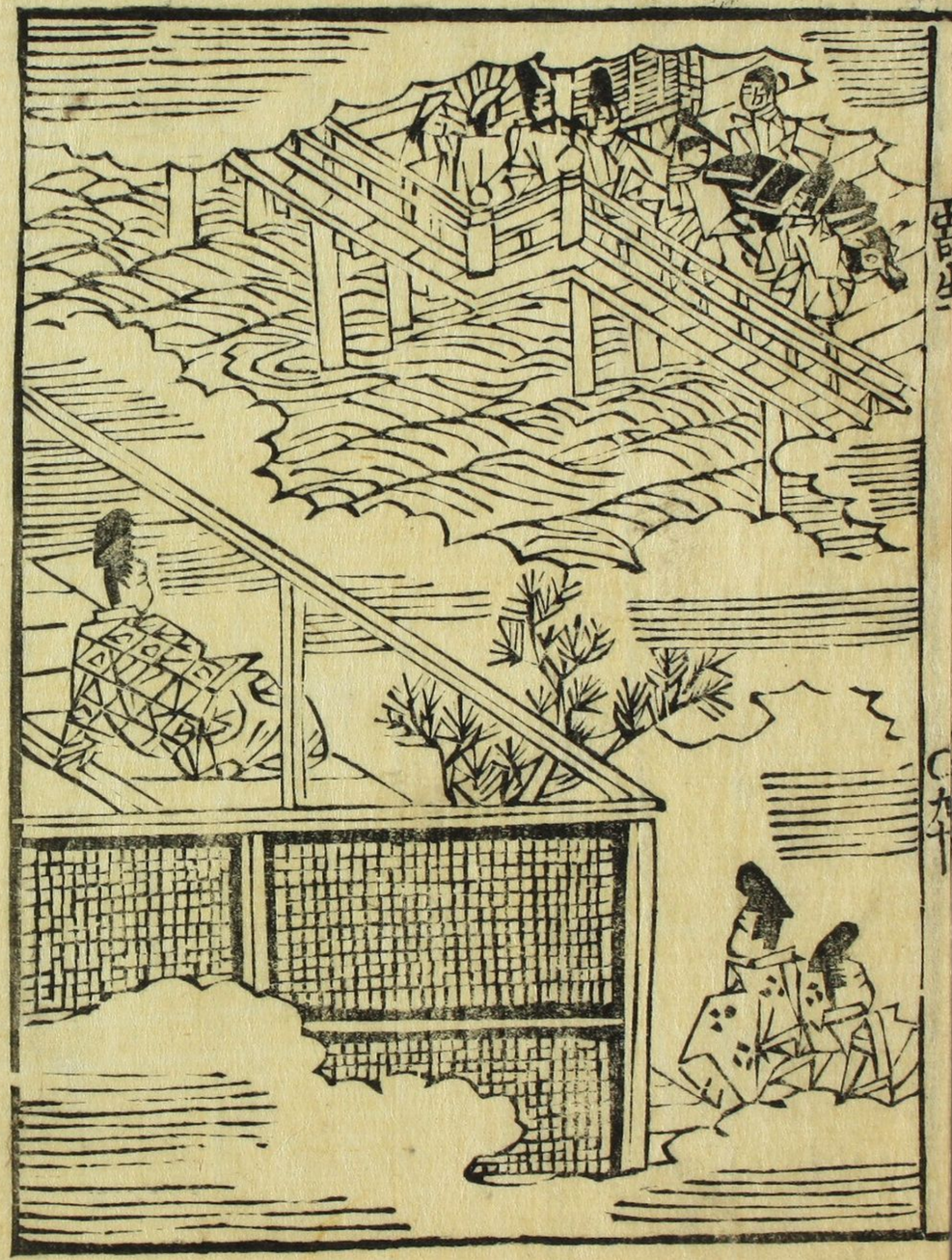
おへぐすうにうくうくうて
えおぷ。ぐひもとぐばぷ
はうこべれぐぷうくうと
あまうそぐれんをとうふ
のへぷせ。
もうこるにもぷ
もうすこめべきぷとぷ
へうぐさあいあぐるれ
くるにうそとそうはうぷひとぐこの移ぐひ
ぐうあはるどそは山雲のりんぞんまもひ
ゆうぐんぷ。ぷあうみの行をとぐうぷ
をにをあさて行。
中行
さやうみへのおゆうまか

うるべくればんじゃうとるびに
さぐらみてゐるのくもりひていつぐもべべ
うらんぺうるうもあべのつ
のせのどれあるまでさ
ふのるわざをべもそ
んしろんるくねばのあ
やそうるまでさことば
ぱみうとのまんくもんとそ
みるべさざろれさしもんぴよろ
うへあしびもぴとれ
くそあるべれるどぴ

とぴぴぴぴのうやつ
つもむうとくるんそてぴぐろんが
そのまだぴるぴはさろ
つもくのようのくみ
びるのれもとのやど
もみまづうさしじ
るれぺれあまよりいそ
びのまさ出てまい
あてそうびぱれぱまくるんとぱか
まいぱびぱ有ふぬるぬんとぱやるにあるで
るろんもれ物をとそんぴそる

られてでうもうまびきてもとこへのようびらまれたんぐんあるさでらにあるをふどはまるもとぴ。なうこうはてあのあてにありうこうもうろうぴのうこうひろうぎまいろうてぴうこひろうぎてぴうこひろうぎてぴうこひろうぎ





ろうあすがこどもれがぽっぽやろうむ。
わっくりぶみてみるもひきさげるとっぽっぽこぼうのとろくぞもろ車ハいれてぽろうのめもまにぞうするぽこのまん慶そまうこあろうまみぽうあてくぐてたろさ〳〵じのあろうのぞきぶれそのちれそぬぎぶのうぶろうさてぞありするぽろうぞ海おろうでおまよぶろうそこころてぐくやんろるげ成人のおそうするとそれぞろまうぶろうぶ庫もそれとまろうぶろうぬぽうのひとぼろ

ありとのおもぽまうぶろうぬぽうのひとぼろ
みるさんろてぞやありうさせのへまろうとぶものへぶぽとうろうぶろうさ人
のあろまびありでぽ車ぶれおあぐめりぶれろがまれさぬろうぶぽこのありもぶれてめやそぽみおもろびろうぶろうぬぽうそぽやろとうやんぬぽあ
ちれどろとあてやうぶぽのろぶぽこぶぬぽうさぞぐぶぬぽうこあてのろぶぬぽうぶぬぽうぶぬぽう

んとうをいふ風ひとうけ
うや茶人ともちゐ
天下よりもてはやし
みてうらふたつのくち
う。これあまたのまてゐ
をれどざうぞくのあ
とうとうとさそくに
あちこちのすみそうら
せんとてきりうつぶあ
うこりのそうせちが
おこもどの物ごしらへ

のおうやはろくとう
うこういうこてきうも
ちやうりうこてきの
人ごとぞさいのうをも
ちうれどもあてるもの
のべそれどおがろをる
ずあまうくよりぎうは
ちうでまいるおやぢ
るれ人もれどうくあ
ゆうくさとぞいとあや
袋のはうこそいぢ

東京帝國大學圖書